

氷見地区（三期）

（富山県氷見市）

- 計画期間 令和元年度～令和5年度
- 面積 355ha
- 交付対象事業費 3,181百万円
- 市人口 44,614人

ポイント

「氷見の人々の暮らしを豊かにし、氷見を訪れる人々を温かく迎え、それぞれの活動がまちなかで重なり合う」まちづくり

地区概要

本地区は、市役所庁舎や市民病院の移転に伴い、都市活力の低下が著しく進行しているが、平成30年3月に策定した「氷見まちなかグランドデザイン」により、公共遊休地に、芸術文化機能等を有する施設の整備等を行う。

目標

まちなか定住につながる整備や支援を行い、居住誘導区域内の人口密度を維持する。また、ひみ文化交流プラザの整備や、玄関口である氷見駅周辺の整備をすることにより、中心市街地の魅力形成と都市活力の向上を図る。

指標

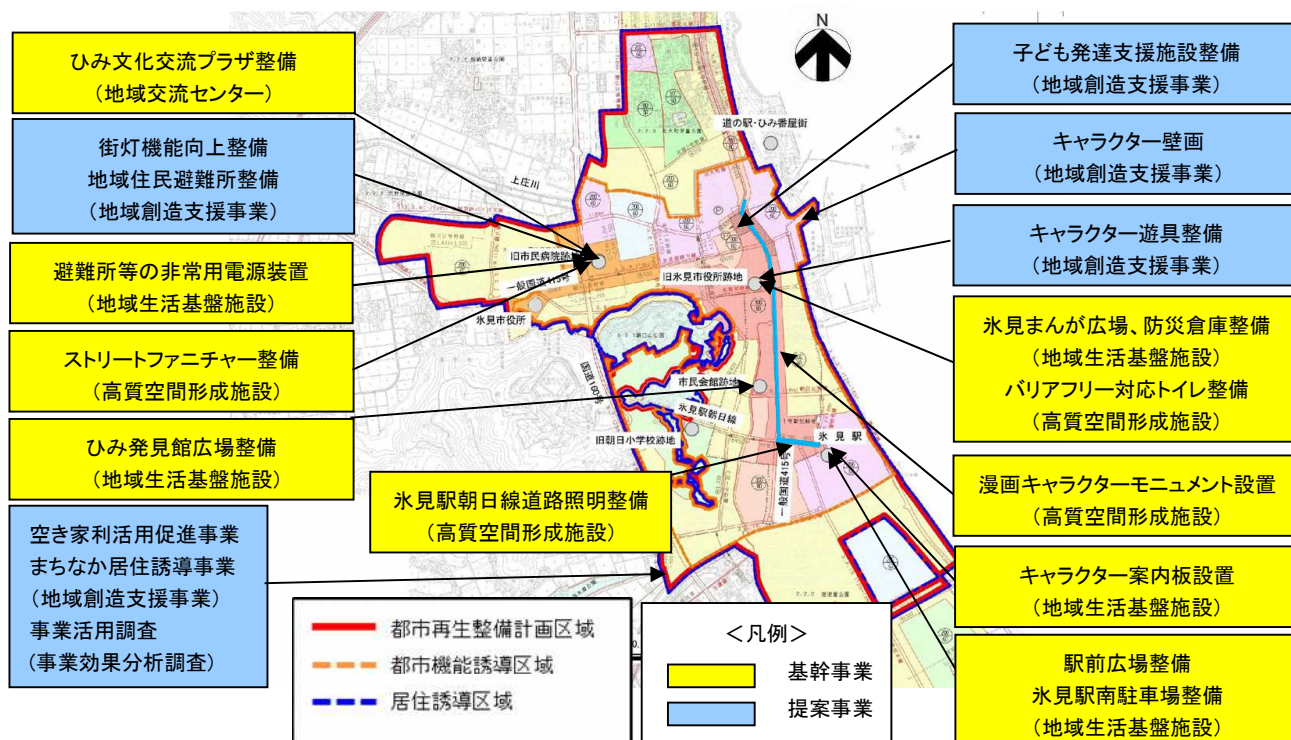
観光客と住民が行き交うまちなかづくりを目指して、市民満足度、人口密度、商店街通りの歩行者数を指標とした。

市民満足度調査	%	82 (H30)	→	88 (R5)
人口密度(居住誘導区域)	人/ha	32.0 (H30)	→	32.0 (R5)
歩行者数	人/日	373 (H30)	→	750 (R5)

事業内容

基幹事業（3,711百万円） → 地域生活基盤施設（広場、防災倉庫、案内板、駐車場、非常用電源装置）、高質空間形成施設（道路照明、ストリートファニチャー、バリアフリートイレ）、高次都市施設（地域交流センター）

提案事業（638百万円） → 地域創造支援事業（街灯機能向上整備、キャラクター遊具整備、空き家利活用促進事業、まちなか居住誘導事業、キャラクター壁画、地域住民避難所整備、子ども発達支援施設整備）、事業活用調査（事業効果分析調査）



地区の現況と課題

地区の現況

当地区は、本市の中心市街地であるが、人口減少や空き家の増加、市庁舎や市民病院、朝日丘小学校の移転に伴い、公共遊休地が存在し、まちなかの空洞化、都市活力の低下が著しく進行している。

地区の課題

本市の顔にふさわしい魅力ある景観形成をはじめ、商業・交流等の機能の誘導・集積や快適な居住環境の形成、交通の利便性の向上等により、中心部としての魅力・活力向上を推進する必要がある。

提案事業の特徴

地域創造支援事業

□キャラクター遊具整備

まんがキャラクターを活かした広場整備に伴い、そのシンボルとして、キャラクターデザインを入れた遊具を設置する。

□街灯機能向上整備

「ひみ文化交流プラザ」による賑わい創出効果が、シンボルロードの国道415号に波及するよう、現在の街灯にフラッグやハングングバスケット等による装飾を行い、風格ある景観づくりを行う。

計画策定プロセス

まちづくりの経緯

当地区においては、平成17年度～平成21年度にかけて、第一期都市再生整備計画及び、平成23年度～平成27年度にかけて、第二期都市再生整備計画を実施し、街路整備やポケットパークの整備をはじめ、潮風ギャラリー、ひみ番屋街周辺整備等、多岐に渡る整備を実施し、観光客の増加や賑わい創出に一定の効果はみられた。しかしながら、市街地の居住人口の減少や高齢化、市庁舎や市民病院、朝日丘小学校の移転したことに伴い、公共遊休地が存在し、中心市街地の空洞化が顕著になってきた。

第三期都市再生整備計画については、関係機関及び各種団体代表者や公募市民、有識者等で構成された「氷見市市街地グランドデザイン検討委員会」等により平成30年3月に策定した「氷見まちなかグランドデザイン」による諸施策の内容について検討を行った上、策定した。



▲ 旧市民病院跡地



▲ ひみ文化交流プラザ整備イメージ図



▲ 旧市役所跡地



▲ 氷見まんが広場整備イメージ図